



和(輪)のまちだより

発行日 平成30年10月1日
 編集・発行 第四地区住民自治協議会 総務部会
 印刷 有限会社 長野プリントサービス

☆第四地区は「諏訪町」「西後町」「県町」「南県町」「妻科」「新田町」の6町で構成されています☆

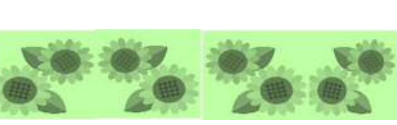
本号は、縦書きを主体にした誌面構成としました。(2・3ページカラー)

中心5地区合同開催「未来トーク」開催される

去る7月21日(土)午後2時から、問御所町の「トイゴ」で第一から第五地区(中心5地区)合同主催の「ながの未来トーク」が二部形式で開催されました。第一から第五地区までの5地区等から約160名の方が参加しました。第一部は事前に長野市に提案を出し、それに市が答える「議題提案方式」で、第四地区は「ぐるりん号の逆回り路線の新設」、「東西横断路線(県庁市役所を結ぶ)の新設」などの提案し、市からは各項目ごとに回答がありました。

第二部は自由討論の「未来トーク方式」で、城山公園、セントラルスクエア、県庁と緑町線の整備事業と、もんぶら、南石堂の西友再整備事業についての市からの説明に続いて、自由討論が行われました。

県立大からも2名の参加があり、「来年3月には1年生250名は寮を出なければなりません。退寮後は可能ならば



以下、中心5地区「未来トーク」の第四地区に関わる質問と長野市からの回答の概要(会議の様子は次ページ写真)

アルバイト求人が多く、セキユリティが充実している中心5地区に住み続けたいが、家賃が高く、学生には厳しい状況なので、学生が住みやすい環境を整えて欲しい」といった発言がありました。

これを受けて加藤市長は「市も知恵を出して、人口増推進課を中心にバックアップして行きたい」と答えるなど、従来には見られなかった若者の積極的な発言があり、盛り上がりを見せた未来トークになりました。

県立大の寮ができたのをきっかけに、元気で若々しい地区に変貌する予感がした一日でした。

一、駅と新諏訪と桜枝町と三輪等を回るぐるりん号のような交通網を整備して欲しい。

【回答要旨】
路線新設は採算性と運転士不足の問題から困難。新諏訪、西長野と長野駅間は「鬼無里線」、「県道戸隠線」などを利用して欲しい。

二、中心市街地の東西横断路線(県庁市役所を乗り換えなしで行ける路線)の導入を図って欲しい。

【回答要旨】
現在の「ぐるりん号」を効率的で、利便性の高い路線となるよう、中央通りを除いた外周コースを設け、長野駅での「乗継券」の発行なども含め、利用者の意見を聞く機会を設けて進めて行きたい。

三、ぐるりん号逆回り路線の新設

【回答要旨】
先述の検討の中に含めて検討する。ただし、逆回り路線を設けると、従来の左回り路線便数が減少すること、県庁通り渋滞時には定時性が損なわれること、バス停の新設の経費増等を考慮する必要がある。

四、国道406号線(加茂神社と茂菅大橋間)の早期整備について

【回答要旨】
大型車の通行が多く、クランクが数か所あり、道路幅が狭隘な同区間の早期整備の必要性は市も認識している。従来から県などを通じて要望活動を行ってきたおり、今後も一日も早く整備が完了するよう、要望活動を行ってゆく。

その他、県立大の象山寮の寮生は来年3月には退寮になり、市中に住むようになるが、住環境の整備を市がバックアップして欲しい。

【回答要旨】
市も喫緊の課題として、積極的に関わり、市長自らも学生の意見を聞きながら進めて行く用意はある。中心地に数ある空き家をリノベーションしての「シェアハウス」、高齢者等の住居の一角を学生などの若者とシェアする「異年齢シェアハウス」なども視野に、広く英知を集めて対応して行きたい。また、市においては担当窓口を一本化するなど組織を横断的にして対応して行きたい。

市長も出席して開催された “中心5地区ながの未来トーク”



(写真上) 暑さが厳しい日にも関わらず約160名の参加で開かれた「中心5地区ながの未来トーク」
(写真下) 司会を務めた左から湯本第三地区会長、横田第四地区会長、浅倉第三地区事務局長



(写真下) 加藤市長に県立大生が市街地に住み続けられるよう住環境の整備を要望する県立大学学生会長の川向思季さん。

(写真下) 中心5地区で一昨年から取り組む「防災士資格取得者を地区内に配備する事業」に呼応して資格取得試験に合格した方々の揃いのユニフォーム姿。



恒例の“ペタンク大会”開催

新設された「後町ホール」で

優勝は妻科Cチーム

去る8月8日(水)午前9時半から、新設された「後町ホール」で、3回目となる「第四地区ペタンク大会」が開催されました。事前にお申し込み頂いた全12チーム、36人が4チームずつ3コートに分かれて予選リーグを行い、各コート1位のチームが1〜3位決定リーグ戦に、各コート2位チームが4〜6位決定リーグ戦に進出、残りの6チームは予選敗退という方式で試合を進めました。

正式なペタンクのルールを極めて簡素にして、小さなお子さんから高齢の方まで誰でも簡単に楽しめるルールにし、熱戦が繰り広げられました。結果は下記のとおりで、優勝は妻科のCチームでした。

優勝賞品は「妻科の井上醸造の味噌詰め合わせ」、準優勝は「南栗町のこうさかフルーツの波田のスイカ」、3位は「南栗町卯月堂のお菓子」、4〜6位は「諏訪町の萬屋のお茶」、7位以下は「西後町の井合麩店の麩」など、今年度は、全ての賞品を第四地区の商店のご協力を頂いて調達しました。



(写真右)優勝の「妻科Cチーム」の左から小沼恵子さん、竹内里美さん、深堀高夫さん。



(写真左)手前左側の黄色の的(ビュツト)に最終的に近い場所にボールが止まったチームの勝ちになるという簡単なルールのペタンク。この写真の場合は青ボールチームがリードしています。



(写真上)約40人の参加で盛大に開催されました。
(写真下)優勝「妻科井上醸造の味噌詰め合わせ」、準優勝「こうさかフルーツ調達の松本波田のスイカ」、以下「卯月堂のお菓子詰め合わせ」、「井合麩店の麩」など多彩な賞品が並びました。



7位以下のチーム(順不同)

妻科小林家№1、諏訪町女子会、県町スマイル、妻科長寿会、妻科A、妻科B、

ペタンク大会試合結果

- 優勝 妻科C(深堀さん、竹内さん、小沼さん)
- 準優勝 チーム県町(小林さん、町田さん、佐藤さん)
- 第3位 小林家№2(妻科の小林家の皆さん)
- 第4位 諏訪町喜の実会(福澤さん、駒村さん、酒井さん)
- 第5位 諏訪町奈々(横田さん、福澤さん、奈々さん)
- 第6位 南栗町お!やや(岡村さん、山崎さん、山田さん)

災害から自分や家族を守る 「自助」とは？

自助とは、自分自身や家族の命と財産を守るために、自分で、家族で、防災に取り組むことです。第四地区は、長野市ホームページに掲載されている「ハザードマップ」に記されているとおり、洪水、地滑り、がけ崩れ、液状化等の発生可能性が極めて高く、安全な地区だと言うことができます。

しかし、9月初旬に北海道で大地震が発生したように、安全だと思われる第四地区でも予期できない自然災害として真っ先に思い浮かぶものは「大地震」です。

大地震が及ぼす人的被害は、家財道具の転倒・落下、家屋の倒壊、火災によるものがほとんどです。

そこで第四地区の私たちは大地震から命を守る方策を立てることが最も現実的で、最優先されることなのです。

まずは自分で自分の身を守る「自助」、そして近隣の弱者を助ける「共助」には行政等による「公助」を待つという順序を理解し、自助に向けた準備をしましょう。

私たちが日頃から準備するべき5項目

- ◆最低3日分の食料・飲料水の備蓄
- ◆常備薬・トイレトペーパー等日用品及び災害用簡易トイレの備蓄
- ◆家具・テレビ・照明の転倒・落下防止の措置
- ◆避難経路の確認と、家族間の災害時安否確認の伝達手段の確保
- ◆自宅の耐震性・耐火性の確保

この5項目は、耐震性・耐火性の確保以外は、すぐにもできることです。まだという方は、早めに対策しましょう。

なお、個人所有の昭和56年5月以前に着工された平屋又は2階建て住宅にお住いの方は、無料で耐震診断を受けることができます。

その結果を受けて、耐震補強工事を施工する場合は補助金交付の制度もあります。詳しいことは長野市建築指導課(電話024-6753)までお問合せ下さい。

「道路名称募集」の締め切り迫る！

県庁西側からすき亭、うるおい館方面に延びる道路の名前募集の締め切りが迫って参りました。まだ間に合いますので、最後の応募をお待ちしております。

応募方法

葉書に道路名称(何作でも可)、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、左記あてお送り下さい。

応募先

〒380-0833 長野市権堂町2201-20 権堂イーストプラザND 1階「第四地区住民自治協議会」

賞品

最優秀賞 1名
5千円相当の商品券プラス
すき亭の商品券1万円

次点

1名
3千円相当の商品券プラス
うるおい館の「入浴券」

応募締切

10月31日(水)到着分

「第四地区合同防災訓練」のお知らせ

災害発生時に自分の身を自分で守る「自助」がスムーズに行えるように防災訓練に参加しましょう。

日時

10月13日(土)9時30分～12時頃まで

場所

西後町県立大学「象山寮」敷地内「後町ホール」併設の「後町ギャラリー」前

中央消防署の指導で自助につながる実践的な訓練を行います。

参加者全員には素敵なプレゼントの用意があります。近所お誘いあわせのうえ、大勢の方の参加をお待ちしています。

広告欄

広告欄

広告欄

広告欄